



伊予門
號 100
卷 2

北
目
錄

北
全
太
平
記
卷
之
二

目
錄

豐原寺合戰

附 明王院高名事

帝釈堂口合戰

附 玄任討死 并 亡魂事

霜臺貞景卒去事

加州著津合戰事

金吾教景加州奔向

附 今倭川合戰事

能越勢敗軍

附 教景被引取越前事

加州江沼郡軍

并 佐々木義賢山科放火事

13
2861
2

明治三六年
十月十八日
購

孝景卒去

并唐船着岸越前重

教景入道宗嫡加州奔向事

加州津葉千足南卿落城事

堀江中務丞義勇并宗嫡敷地山居陣事

鯨江兵部雨中夜話事

加州勢敷地江寄附軍勢手分事

敷地山濱手追手兩所合戰事

菅生口合戰附大町兄弟討死

并龍崎官千代自害事

北国全太平記卷之第二

洛下 後学 馬場信意輯録

豊原寺合戦 附明王院高名事

去程ニ加賀能登越前越中ノ一揆浪人武者共越

前諸口ノ合戦ニ打負テ此耻辱ヲ雪ント憤リケ

ルカ豊原寺ヲ討捕テ河ヨリ北ヲ進退セント相

催シ同キ十月十日永正豊原寺ノ堂前口文殊堂

口へ押寄ル豊原寺ノ衆徒等大ニ驚キ取者モ取

敢ス我先ニト打出ル其輩ニハ明王院花藏院王

養坊圓鏡坊ノ荒三位西方院ノ天狗二位行泉坊

大深院ノ鬼式部同圓了坊中方山伏其外下小法

師。小姓中間官任。定使預り老若ヲ云ハス爰ヲ詮ト
相戦フ。番手ノ勢ニハ。朝倉主佐守士卒ヲ従ヘ馳
向フテ。坂口ニテ火出ル計リニ防ギタリ。中ニモ
明王院ハ。大剛ノ法師ナリケルガ。同宿共ヲ前後
左右ニ立真先ニ進ンテ敵中ニ切テ入り。四面ニ
當リ八方ヲ拂ヒ。千變万化シテ此ニ頭ハレ彼ニ
隠レ死生知ラスニ相戦フ。今日卯ノ尅ヨリ申ノ
尅ニ及ブマテ。終日ノ合戦ニ。一揆等又戦ヒ負ケ。
前後不覚ニ敗北シ。討ル、者數ヲ知ラズ。明王院
ハ此度ノ戦功莫太ナリトテ。其忠賞トシテ。朝倉
貞景河口庄新口ノ公文分ヲ。明王院ニゾ與ヘラ

レケル

帝釈堂口合戦 附 玄任討死 亡魂事

去程ニ其比ノ本願寺上人ハ去ル明應八年三月
二十五日。權大僧都兼壽蓮如上人。自開山上御年
八十五歳ニテ入救シ玉ヒ。御子大納言法印權大
僧都光兼号教恩院實如上人ニテ坐シケル処ニ。同キ四年
正八月上旬。越前ノ浪人和田超照寺大坊主共能
登越前ヲ始メ。近国ノ一揆共ヲ相語ラヒ。越前へ
入国ノ儀ヲ實如上人へ訃詔スト云ヘトモ曾テ
調ラサル処ニ。加賀ノ国石川郡ノ玄任ト云ヘル
者。越前一国ノ勢ヲ望ミ。越前ニ乱入セント相催

ス。和田坊主大ニ悦ビ。諸卒ニ向ツテ申ケルハ。汝等必ス敵ヲ怖レ臆スベカラス。只一向心ニ敵ノ方ヘ向フ足ハ。極樂浄土ヘ參ルト思ヒ。口ニ弥陀ノ名号ヲ唱ヘ。少シモ引退クコトナカレト教化シケレハ。士卒仰ニヤ及ブト領掌シテ。同キ八月二十八日ニハ。河北郡上ノ口。帝釈堂口ニ打出ル。潔クゾ見ヘタリケル。係ル処ニ。越前ノ多勢。迎寄ニシテ打散セト。不意ニ押寄相戦フ和田超照寺ヲ始メ。加州勢散々ニ打ナサレ。咄ト崩レテ逃ゲ行クヲ。越前勢遁ジト追カクル。玄任太剛ノ者ナレバ。已レガ手勢三百余人ヲ従ヘ。取テ返シテ

防戦シ。多勢ノ中ヘ切テ入り。忽討死シケレハ。三百余人ノ者共。一足モ退カス。枕ヲ双ベテ討死ス。誠ニ卿民共トハ云ヒナガラ。義ヲ守ツテ討死シケルゾ。ケナケナル。和田坊主ハ其間ニ。虎口ノ害ヲ遁レ。免角シテ逃取ル。玄任ガ女房。布施物樽着等夥タク持セ来リ。坊主ヲ見テ伏マロヒ。泣カナシムコト限りナシ。和田坊主是ヲ見テ。玄任此度討死ノコト。御邊トハ借老同定ノ契リ。浅カラサル中ナレバ。歎カル。モ理リナリ。去ナカラ人間ノ八苦ノ中ニ。愛別離苦。怨憎會苦。此ノゴトクニ様々ノ苦ミアレバ。今更ナケキ玉フヘカラス。

只後生コソテ大事ナレ。夫ノコトハ必ズ心安ク
思ハレヨ。往生ノ素懐ヲ遂ラルベキゾト云ヘハ。
女房サン候夫ガコトハ。御教化御催促ヲ有難ク
思ヒ。一足モ退カス。討死仕リ候ヘハ。後生ニ於テ
ハ。極樂浄土ノ蓮臺ニ至ランコト疑ヒアルマシ
ク候。只御坊ノ是ニテ逃飯リ玉ヒシコト。無間地
獄ニ墮サセ玉フラント存ジ候ヘハ。御痛シク候
ユヘ。其ヲ歎キ候ト云ヘハ。坊主案ニ相違シテ。面
目ナケニテソ立ニケル。去程ニ加州ノ玄任帝釈
堂口ニテ討死ノ後。三十日計リアリテ。近邊ノ在
々ニ。討レシ者ノ亡魂ヨト覺ヘテ。怪シキ者ヲ見

タル者共多カリケリ。或夜誰トハ知ラス。里民ノ
門ヲホトくと叩ク者アリ。亭主誰トテ立出レハ。
首モナキムクロノ。色白キカ四五人出来ル。是ハ
ト驚キ能見ントスルニ。消々トナリテ失又。又或
夜民家ノ窓ヨリ。色青々トシタル生首ガ指入テ
莞尔ト笑ヘバ。女房是ヲ見テ。アツト叫ンテ伏マ
ロフ。其色ト共ニ。搔消ヤウニ失ニケリ。又アル時
簾尾ノ僧三人連立テ。帝釈堂ノ道ヲ通りケルニ。
目既ニ暮カハリ。雲重ナリ小雨フリ。風烈シク吹
テ。雲上ニ兵馬ノ馳チガフ音。夥タシク聞ヘシカ
バ。三人ノ僧徒膽ヲ消シ魂ヲ失ヒ。寺へ逃飯ツテ

大息ヲツキ。忙然トシテ居タリケルガ。人心地出
 来テ後。其赴ヲ語リケレバ。諸人大ニ驚キケリ。此
 コト世ニ風聞シケレバ。僧信上人。豊原寺ノ衆徒
 ヲ催シ。帝釈堂ニ於テ。昼夜法華經ヲ讀誦アリ。卒
 都婆ヲ立廻向シ至ヒシカバ。其ヨリ関ノ邑。兵馬
 ノ音止ニケリ。国主朝倉貞景此コトヲ聞討レシ
 者共ノ亡魂ヲ吊ハレンガタメ。翠羊阿波賀ニ經
 堂ヲ建立シ至ヒ。若干ノ寺領ヲ寄附シ。毎年四月
 十七日ヨリ。同キ二十六日マテ。百十口ノ衆僧ヲ
 集メ。干部ノ法華經ヲ讀誦サセラレケリ。此法事
 後ノ代マテモ断セサルゾ有カタキ。是現世安隱

後生善所ノ經玉。治国安民ノ要法ナリ。此貞景ハ
 武勇ニ達シ。敵ヲ靡クルニ威ヲ以テシ。民ヲ懷ク
 ルニ仁ヲ以テシ。佛神ヲ信敬シ至フコト甚ダシ。
 去レバ都東山ノ清水寺ニモ。新觀音堂ヲ建立シ。
 燈明由ヲ寄附セラル。今ニ至フテ。世人朝倉堂ト
 云ヘルハ是ナリ。又越前ノ国。平泉寺ノ神事ニ。三
 所ノ張山ト云フコトアリ。是ハ國中ノ有徳ナル
 百姓共。入道シケルトキハ。馬張役トテ。此山ヲ張
 リケルナリ。張ルベキ分限ナキ者ハ起請ヲ書テ
 ダ撃ゲハル。若偽リアルトキハ。忽滅亡シケルト
 カヤ。貞景此コトヲ思慮セラレ。末代ニハ有徳ノ

土民アルベカラズ。其上民ノナゲキナレバトテ。大野郡ニテ若干ノ張山料ヲ寄附セラレ是ヨリ民ノ張山役ト云フ支止レカバ。土民等其恩惠ニナツキ悦ブコト甚ダシ。其外南陽寺ノ佛殿并ニ方丈ヲ再興アリ。佛事祭礼等モ断タレヲ継廢レタルヲ興サル。扱コソ一揆蜂起ノ乱ノミニモアラス。貞景ノ世ニ種々難儀ナル合戦。数度ニ及ンテアリシカトモ。早速ニ勝利ヲ得。國中安全ナリシモ。偏ニ信力堅固ノユヘナルベシト。諸人是ヲ感稱ス。

霜臺貞景卒去事

去程ニ越前ノ大守朝倉彈正左衛門尉日下部貞景ハ。武威益盛シナリケルガ。同九年正二月二十一日。放鷹ノタメニ出玉ヒケルニ。不慮ニ途中ニテ卒去シ玉ヒシカバ。上下アキレ。驗キテ位悲ムコト限リナシ。行年未ダ四十歳惜カルベキ齡ゾカシ。嫡男孝景家督相續アリト云ヘトモ。若年タルニヨツテ。叔父左衛門尉教景後見トシテ。國政ヲ執行ハル。孝景悲歎ノアリ。亡父貞景ノ菩提ノタメ。卒去セラレシ地ニ。一寺ヲ建立シ玉ヒ。天沢寺トゾ号セラレケル。生者必滅ハ人間常ノ習ナレハ。今更何ゾ悲ムベキ。寂尊未ダ雙樹ノ雲ヲ

免レ玉ハス。天人猶退役ノ愁ヲカナシム。命ハ飛
 禽ノ卵ニ似タリ。身ハ芭蕉ノ葉ニ同ジトハ申セ
 ドモ。哀レナリケル。復共ナリ。然ルニ加州ノ一揆
 敗軍ノ後ハ。朝倉方ヨリ。北陸道ノ往還ヲ指塞キ。
 賀越兩國ノ堺ニ關ヲ居多ク兵士ヲ置テ。旅客ノ
 者ヲ選マル。又堀江中務丞。宇野新左衛門尉警
 固トシテ。海上ノ通路ヲ止メケル間。京都ヲ始メ
 諸國ノ諸商人難儀ニ及ビ。京都ノ公方義植卿ニ
 訴ル。是ニヨツテ同十六年。永正四月下旬。將軍家ノ
 御教書ヲ帶シテ。伊勢守。越前ニ下向シケレバ。薄
 正左衛門尉孝景府中ニ於テ對面アリ。御教書ヲ

加州着津合戰事

頂戴セラル。伊勢守扱ヒニヨフテ。北陸道ノ通路
 ヒラケ。往還自由ニナリシカドモ。賀越兩國ノ和
 睦ノ儀ハナカリケリ。
 茲ニ本願寺ノ第九世。教恩院實如上人ハ去ヌル
 大永五年二月二日。六十八歳ニテ入寂シ玉ヒシ
 カ。御子中納言光圓。照如早世シ玉ヒ。其御子權僧
 都光融。如サヘ。去ヌル大永元年八月二十日。三
 十三歳ニテ。是モ世ヲ早フシ玉ヒシカバ。光融ノ
 御子。曾祖父實如上人ノ養子トナリテ御年三歳
 ニテ。本願寺ノ十世トナリ玉フ。法印權僧正。信受

院光教證如上人是ナリ去ニヨツテ候人下津間
筑前守。舍身民部少輔。小大トナク心ニ任セテ執
行ヒケルガ。飽マテ奢リヲ極メ。其比ノ公方義晴
郷足利十ノ御供衆ニマテ召加ヘラレケレバ。下
津間兄弟。猶モ大官高位ヲ望ミ。哀レ天下ノ諸士
ヲ攻靡ケ日本ヲ伐リ取テ。我身將軍トナツテ。榮
花ヲ極メント思ヒレカバ。享祿二年ノ春。先加州
ニ下着シテ三山ノ大坊主。四郡ノ宿老共ニ。此コ
トヲ内談ス。三山ノ坊主共是ヲ聞寺院ノ候人々
ル御身ニテ。如何ニ威勢強ケレバトテ。天下ヲ望
ミ至ハシコトハ。云レザル儀ニテ候ハスヤ。古ノ

聖人ノ教ニモ。身ノ脛短シト云ヘドモ。是ヲ續ト
キハ憂ナン。鶴ノ脛長シト云ヘトモ。是ヲ斷トキ
ハ悲マン。長キモ斷スル処ニアラス。短モ續処ニ
アラスト云ヘリ。是則他ノ物ヲ取ラス。自ノ物ヲ
惜ス。邪僻貪欲ヲナサル禁メニテ候ハスヤ。又
一向宗門ノコト。雜行雜修自カノ心ヲ打捨テ。一
向ニ無智ノ尼入道ニ等シク。念佛三昧ニ入テ。一
心ニ弥陀佛ヲ信スベキ由。蓮如上人ノ御提ニモ
候者ヲ。何ユヘニ武家ノ分國ヲ押領シ。合戦ヲ旨
トシテ。大切ナル命ヲ失ヒ候ベキト云ヘバ。四郡
ノ僧徒。河合洲崎ノ者共モ。皆此儀尤ナリトソ同

シケル。其トキ筑前守和田超照寺兩人偽ツテ云
ヒケルハ。是我々か企テニアラス。上人天下ヲ知
シ召レ。下律間ニ政道ヲ執リ行ハセントノ御内
意ナリ。上人ノ仰ニ於テハ。海ヲ内ニセヨ。山ヲ海
ニナセト仰ナリトモ。爭カ違背申サルベキ。千將
利ト云ヘドモ。得スンバ自ラ断スルコト能ハビ。
洪鐘ノ響キモ撞サレバ鳴ス。王琴ノ調ベモ觸サ
レバ音セス。故ニ師ヲ敬ヒ君ニ事ル道ハ。其命ニ
従フヲ以テ本トセリ。一向御承引ナキ上ハ。別ナ
ルコトモ候ハス。各ハ則法敵ニテ候ゾト。大ニ怒
ツテ飯リケルガ時自ヲ移シテハ惡カリナント。

波尤谷へ押寄。御堂。客殿。膳所。休所。樓門。中門。悉ク
放火シテ。法印ノ御坊ヲ始メ。悉ク指殺シ。其ヨリ
石川郡へ押寄。若松ノ寺内ヲ放火シテ。御坊ヲ生
捕山科へゾ登セケル。其ヨリ大一揆小一揆。合戦
度々ニ及ビケルガ。老者方討負テ。河合。洲崎。上坂
山本。河原組ノ大将以下。悉ク能越へゾ落行ケル。
去レドモ。江沼郡ハ未ダ静ナリケル。処ニ。同キ八
月十七日。和田超勝寺。能養。石川ノ小一揆。七千余
騎ヲ引卒シ。山田坊主黒瀬覺道ヲ攻シカタメ。寄
来ル由聞へシカバ。江沼郡ノ軍勢共著津口へ馳
向フ。其勢三千余騎ヲ三手ニ分テ。一手ハ東ノ方

ヨリ。敵ヲ山ノ手ニ請テ懸出ル。一手ハ西ノ方濱ノ手ヨリ。魚鱗ニナツテ打出ル。一手ハ追手ノ松ノ影ヨリ。鶴翼ニ備ヘテ開キ合ス。味方ニ敵ヲ見合スレバ。對揚スベクモナキ大勢ナレドモ。陣ノ張様シドロニテ。却ツテ開ヌヘウ見ヘタリケレバ。黒瀬ノ者共氣ニ乗テ。三方ヨリ勝鬨ヲ作り。喚キ叫ンテ相戦ヒケレハ。諸卒一同ニ崩レ立。右往左往ニ逃行ヲ追討ニスル程ニ。七百余人討取リ本陣ヘソ飯リケル。山田坊主黒瀬圓鏡以下。初度ノ合戦ニ打勝テ。勇猛ヲタクマシクスト云ヘドモ。始終叶ハジト思ヒケレバ。越前へ飛脚ヲ馳ハシ頻ヒリニ加勢ヲゾ乞ニケル。

金吾教景加州發向 附今湊川合戰事

加州ノ脚カシキナミニ打テ。援共ヲ賜ハルベシト乞シカバ。朝倉霜臺孝景指置ベキニアラス。先加州へ足輕ヲ遣スベシトテ。享祿四年八月十九日。堀江三郎左衛門尉ヲ大将トシテ。三百余人ヲ指向ラル。此勢先ツ。菅生村ニ陣シケルガ。江沼郡ノ一揆共起リ來ル由難説シキリナリケレハ。敵今ヤ攻來ルト。安キ心モセザリケル処ニ。同キニ十二日。朝倉左衛門尉教景。嫡子孫九郎景紀。江南江北ノ諸勢八千余騎ヲ引卒シ。加州ニ馳著敷地。

管生村ニ陣ヲ取り。同キ九月五日。又敷地。管生ヲ
卯ノ冠ニ立テ。本折へ陣替ヲソセラレケル。此ト
キ島山修理太夫義隆モ。越前ト心ヲ合セ。一族大
隅ヲ大将トシテ。遊佐神保温井以下。能登越中ノ
軍勢ヲ指向ラル。此勢賀北堺ニ陣取リシカハ。弥
勢ニ強大ニゾ見ヘニケル。同キ十月二十六日。越
前ノ大将。左金吾教景。諸勢ヲ従へ。子ノ冠ニ本折
ヲ打立テ。今俣川ヲ越べシトテ。士卒河原表へ打
蒞ミケル処ニ。敵共等向フノ岸ニ疊楯四五百ツ
キ並べ。勢ノ程四千騎計リニテ。扣へタリ。山崎櫻
井。中村。堀江。訖養。海江以下ノ。早リ雄ノ者共是ヲ

見テ。我劣ラジト一同ニ河へ打入レテ。馬矢ヲ組
テ押渡ス。加刺勢此勢ニ辟易シテ。一支モ支へ
ズ。楯ヲ捨テ。矢物具ヲモ打捨テ。蜘蛛ノ子ヲ散ス
カゴトク。八方ニ分レ。逃行ヲ。越前ノ若者共追カ
ケク討程ニ。敵兵ノ首八百余級討捕リ。石川郡。番
田。土室。藤塚以下ノ在ル所々ヲ燒拂フ。此トキ。平
任ガ組ノ者共ハ。兼テ内通ノ子細アルニヨリテ。
一勢傍ニ引退テソ備ヘケル。斯テ教景ハ。勝鬨ヲ
執行ヒ。日夕陽ニ及ビシカバ。諸卒ヲ従へ。寺井ノ
陣所ニ引入レラル。山崎新元衛門尉ハ。今俣ニ陣
ヲ取ラセ。討取ル処ノ敵ノ首ヲ。川向ヒ敵堺ニゾ

カケラレケル。同キ二十八日。大雨頻リニ降出テ。サナガラ篠ヲツクカ郊シ。此今倭川ト申ハ。白山一瀬ノ裾ナレバ。山々峯々ノ水流レ集ツテ。大雨ニハ一時カ程ニ大河トナル所ナレバ。今日ハ越前勢モ河ヲ越スコトハ叶フマジキソトテ。石川河北ノ一揆共。玄任カ在所ヲ攻立ル。越前方ノ足輕共八百人計リ。玄任カ勢ニカヲ合ンカタメ。舟ニ乗テ押渡リシガ。玄任カ組ノ者共ノ崩レ口ニ行合ヒ。河際ニテ爰ヲ詮ト相戦フ程ニ。或ハ河へ追ハメラレテ。水ニ溺レテ死スルモアリ。或ハ敵ト組テ指違フルモアリ。既ニ合戦最中ナリト見

ヘケレハ。大將教景ヲ始メ。諸勢何キハニ打出テ。類リニ関ヲソ揚タリケル。

能越勢敗軍 附教景被引取越前事

時ニ神波新左衛門尉進々出大將左金吾教景ニ向ヒ。此河ノコトハ。敵素ヨリ案内ヲ能知リタルコトニテ候ヘハ。爰ニテ如何ニ関ヲ揚ラレ候トモ。味方渡スコトハ叶フマジト。推量シテ候ヘハ。関ノ壺ハ益ナキコトニテ候ハンカ。只上ノ瀬へ御マハリ候テ。川ヲ越ルヘウモヤ候ラント云ヘバ。金吾此儀尤ナリトテ。士卒ヲ従ヘ打マハツテ。上ノ瀬ヨリ渡サルハ。扱コソ味方ノ足輕共モ。玄

任ガ手ノ者共モ必死ヲ免レ引取リケリ。敵方ニ
ハ大ニ悦ビ先自カケラレタル味方ノ首ニ其目
討取リシ首共ヲ取集メテ然ルベキ越前勢ノ名
字共ヲ書付下口ノ能登越中ノ陣堺ニゾカケタ
リケル去程ニ能登越中ノ軍勢共是ヲ見テ敵ノ
謀トハ夢ニモ知ラズ。叔ハ越前勢ノ宗徒ノ者共
ハ悉ク討レタリト覺ユルゾト云フ程ユソアレ
諸勢色ヲ變ジ陣中騒動スルコト夥タシ加州兩
郡ノ者共敵ヲ思フマニ方便リ課セテ後能登
越中ノ陣へ不意ニ押寄攻立ル素ヨリ臆病神ノ
付タル者共ナレバナレカハ以テ怖フベキ散々ニ

討ナサレ死スル者数ヲ知ラズ。大将大隅遊佐神
保三宅温井父子三人加州浪人河合藤左衛門尉
洲崎以下我モくト討死シケレバ其間ニ軍勢共
這々我國ヘリ逃散リケル去程ニ越前ノ大将朝
倉金吾教景ハ今漆川ニ舟橋ヲカケサセ諸勢安
々ト川ヲ渡サルハ係ル処ニ下口ノ方ニ當ツテ
燒失ノ烟夥タシク立登ル諸勢是ヲ見テコハ何
ゴトソト驚キケルカ武功ノ者共能々見課セテ
申ケルハ何様此烟ハ能越ノ軍勢共味方ニカヲ
合シ攻上ルカト覺へ候明日ハ一定能登越中ノ
勢ト御對面アルベシ目出しくと云へハ教景頭

ヲ振テ。イヤク是ハ左ニアラズ。能越ノ軍勢共攻
 上ル程ナラハ煙次第ニ延ツクベシ。此煙ハ燒下
 レハ。能越ノ軍共一定打マケタルト覺ルナリ。
 日モ晚方ニナリヌ。先ツ各陣所へ飯ラレヨトテ
 り入ラレケル。然ル処ニ夜半計リニ及ンテ追手
 ノ篝火所へ女房一人來リ。是ハ河原四郎左衛門尉
 ノ女房ノ許ヨリ參テ候。此文ヲ急キ四郎左衛門
 尉ニ渡シテ夕ヒ候ヘト云ヒ捨テ。カキ消ヤウニ
 失ニケリ。番ノ者共不思議ノ思ヒヲナシ。頓テ大
 將ニ參ラスル。教景聞キ見玉フニ。今日巳ノ寇ヨ
 リ。下口ニ合戰始リ。能登越中ノ諸勢悉ク討レ。敗

軍仕ル候ナリ。然ルニヨリ上郡下郡一同ニ蜂起
 シテ。其口へ向ヒ。取圍ンテ討取ント相謀リ候ナ
 リ。其心得ヲナサルベキ由ヲ書タリケル。教景
 去レバコソ。今日ノ燒ヤウ不審ニ思ヒシ處ニ。疑
 ヒモナク。能越ノ味方。敗軍ニ及ヒタリ。暫クモ退
 留スベカラストテ同キ十一月二日。諸陣へ相觸
 ラレケルハ。明日ハ原モガ口。山内ヲ攻ヘキナル。
 皆々丑ノ寇ニ兵糧ツカイ。寅ノ寇ニ打立ヘシト
 ソ下知セラレケル。斯テ翌二月中路下路二平ニ
 分レテ引取ラル此旨越前へ進進セラレケレバ。
 大將孝景モ多勢ヲ從へ馬ヲ出サルベキニ定マ

リレユヘ。教景モ敷地。管生ニ陣ヲ取ント議セラレシカドモ。引キ立キタル多勢ナレバ。我先ニト越前指テ引取リケル程ニ。教景モ力ナク。同キ七日。越前ニ飯陣セラレケリ。

加州江沼郡軍 長佐々木義賢山科放火事

此トキニ。加州三山ノ大坊王ヲ始メ。富樫分方。黒瀬藤共衛尉。福田竹太夫。柴山一針。能養郡ニハ。松永平左衛門。隅田六郎左衛門。湯浅九郎兵衛。金子小杉。小松ノ道秀。藤墳ノ二木。光口ノ齊藤安宅ノ今井藤右衛門以下二千余人。教景ニ相從フテ。越前ニゾ落来リケル。茲ニ河合カ嫡男。洲崎孫四郎

玄任次郎右衛門。土田山本。上坂與三兵衛以下。二

百余人ハ。能登越中へ落行テ居タリケルカ。翌年

亨祿三月下旬。又越前へ落来リケレバ。教景是ヲ

取リ持モテ霜臺ニ披露シテ。毎年配當二千余貫ヲソ

出サレケル。其後加州浪人一同ニ。教景ヲ以テ入

国ノ夏ヲ訥詔スト云ヘトモ。孝景許容シ玉ハガサ

レハ。徒イタニ月ヲ送リケルカ。早晚マテ時ヲカ待

ベキトテ同キ。改今年元天元ノ八月二十八日。浪人武者

討リ。加州江沼郡へ打入テ。惣曾々利裾織村ニ陣

ヲ取ル。二。兩郡ノ一揆原急ニ押寄取卷テ。火水ニ

ナレト攻互ル程ニ。宗ト頼宗ト頼頼ト思ヒツル。黒瀬五郎

左衛門ヲ始メ十余入討レテ又越前ヘツ引取リ
ケル翌年天文二年三月九日又加州ノ浪人武者共越
前ノ牛屋ニ陣ヲ取リ加州上郡ヘ月々足輕カレヲカ
ケルル処ニ味方ニアリシ黒瀬左近四郎敵方ニ
心ヲヒルガヘシ出陣スル躰ニモテナシ風谷ヲ
越テ加州ヘ逃販リシ程ニ諸卒手ヲ失ヒテ又此
度モ引入レケリ然ルル処ニ京都ニハ江州ノ佐々
木六角ツクシ彈正大弼義賢山科ノ本願寺ヲ法華宗同
夏ニ攻ケレバ證如上人如何トモシモフベキ術
ナク密カニ撰州大坂ヘソ落行タマヒケル誠ナ
ルカナ天道ハ盈ルヲ虧ト云ヘルコトヲ去レバ

咸陽宮ニモ劣ラシト聞ヘシ山科ノ寺内モ一時
ノ中ニ破却セラレテ灰燼トナリ念佛三昧ノ阿
弥陀堂ノ跡モイツシカ露斑々タル草ソコトモ
知ラズ打茂リ陰森タル諸木モ悉ク切り尽サレ
秋去リ春來レドモ春色ナク回祿ノ余烟ノ殘
リ池水ニ獨リ任月モ何トナク物サビシク叢ニ
スタク虫ノ音ハ旅客ノ耳ヲ驚口カセリ下律間
筑前守兄弟モ程ナク滅ビ失シカハ其ヨリ北國
靜謐ニ及ビ諸民太平ヲ唱ヘケリ
孝景卒去 余唐船着岸越前事
然ルニ天文十七年三月二十二日孝景朝臣彼著

寺へ參詣し玉ヒケルガ其日ノ申ノ尅計ラスモ路次
 ニテ卒去し玉フ。行年五十六歳。諸人情惜ニ參ラス
 ルト云へドモ。飯り玉フへキ道ナラ子ハ終ニ性
 安寺ニ送リテ。印塔一擲ノ主トナシ參ラセ。性安
 寺大岫宗淳居士ト号シケリ。此孝景朝臣ハ若州
 ノ大守。武田中務。太輔元信ノ驛ニテ。武威ヲ遠近
 ニ震ヒ。加之京都ノ公家ニ軍忠ヲ尽シ。將軍義
 植卿ノ御相伴衆トナリ。白キ傘袋虎ノ皮ノ鞍覆
 マテ。御免レヲ蒙リ玉フ。武勇ノ勝レタルノミニ
 アラス。佛法ニ皈シ玉ヒ。寺舎多ク建立シ玉フ。所
 謂英林寺。子春寺。天次寺。性安寺。遊樂寺。英仙寺。賢

松寺。壽恩寺ノ塔是ナリ。又廬山ニモ佛宇ヲ造立
 シ玉ヒ。威光モ先代ニ勝レテ。遠近ニ耀キシカハ。
 遊覽モ亦多カリケリ。然ルニ江州ノ佐々木近江
 守氏綱号ス雲ノ末ノ子ヲ養子ニシ玉ヒ。孫次郎信
 景ト号セラレ。是ニヨツテ養父孝景ノ遺跡ヲ續
 ギ。国政ヲ執行ハレ。京都ノ管領細川右京大夫晴
 元ノ翌ニナリテ。武威益盛ニナリ。是ニヨリテ公
 方光源院義輝卿ヨリ。諱ノ字ヲ賜ハリ。義景ト改
 メ。左衛門督ニゾ任セラレケル。同キ二十年七月
 二十一日。唐船倭口ニ来リ。同キ二十五日ニ倭へ
 入ル。唐人其數百二十一人。船頭ハ南山ト号シ。脇船

頭ハ濟山ト号ス。倭ノ小谷ト云フ者ノ所ヲ宿所トス。昔ヨリ當津へ唐船着岸ノコトハ。未夕聞サル処ナリトテ。見物貴賤群集セリ。

教景入道宗滴加州癸向事

爰ニ朝倉左衛門尉教景入道宗滴ハ既ニ七十九歳ニ及ビシカトモ。猶モ武略ノ道ヲ捨ス。朝暮心中一思慮シ玉ヒケルハ。四海ノ乱ヲ鎮メ。國家ノ泰平ヲ致スハ。武將ノ謀ニヨル者ナリ。然ルニ賀國ノ士民等。本願寺ノ語ヲニ。武家ノ國郡ヲ押領シ。恣ニ其威ヲ震フコト慕惡ノ至リ。古今未ダ其類ヲ聞ズ。只是佛法ノ怨敵國ノ殘賊ナリ。渠ヲ退

治シテ。諸民ノ愁ヲ助クベシトテ。加州癸向ノコト。内々義景ニス、メ申サレケルバ。加州ハ是レ父祖代々ノ敵國ナリ。彼ヲ亡サスレテ。徒ニ年月ヲ送ンハ。嘲ヲ天下ニ取ルノミニアラス。父祖ノ名マテモ。黃泉ノ下ニ耻シムルナゲキアリ。殊ニハ先年。入道彼國ノ湊川ヲ越。石川郡マテ攻入り候ヒシニ。存ノ外島山カ勢打負テ。敗軍ニ及ヒシユヘ。愚老モ勢ヲ打納レ候コト。鬱念今ニ散セス候。然レバ入道ガ薄命ノ内ニ。今一度勝負ヲ決シ。安否ヲ極メ候ハント。數度利ヲ尽シテ望マレシカバ。義景モ理ニ服シ。仰理ニ當ツテ覺へ候急キ諸

卒ニ觸知ラセ候ハントテ陣觸ヲゾシ玉ヒケル。斯テ天文二十一年七月二十一日金吾入道宗滴多勢ヲ卒シテ打立玉ヒ。其日ハ金津ニ着陣シ。翌二十二月ハ橘上ニ一夜逗留シ玉ヒ。其翌二十三日加州ニゾ打入ラレケル。

加州津葉千足南卿落城事

斯テ沙弥宗滴ハ加州ノ地ニ打入り。敵ノヤウヲ見玉フニ。敵ハ南卿津葉千足三ツノ城ヲ搦ヘ。七八千騎計リニテ楯籠リタリ。入道是ヲ見テ。味方ヲモ三手ニ分ケ。三个所ノ城ヲ攻ラル。至番允景連ハ津葉ノ城ヲ攻ケルガ。松尾竜崎真先ニ進

ンテ戦ヒケルガ。城戸際ニテ敵ト引組指違ヘテゾ死ンダリケル。城兵等是ヲ見テ。高櫓ヨリ指下シテ。取詰引詰散々ニ射ル。半田源左衛門尉新保弥三郎ヲ始メ。究竟ノ若者共五十余人キタナクモ爰ヲ引テ。世ノ人口ニ落ベキヤ。皆討死シテ名ヲ後代ニ残セヨト。命ヲ義ニ替テ。入レ替ク。逆木ヲ引破リ。一足モ引ス攻上リ。敵數十人討捕リ。直チニ城中へ乗込バ。城兵等叶ハビトヤ思ヒケン。搦手ヨリ我先ニト。十方ニ分レ落行ケリ。千足ノ城ニハ。濱浪村ノ大将。大坂。鴻山。津ノ大助。振橋。帶刀以下。三千余騎ニテ楯籠レル処ニ。寄手ノ多勢

押寄タリ。中ニモ福岡五郎右衛門尉吉澄ハ。黒糸
 威ノ鎧ニ。自星ノ兜整ノ大鍬形打タルヲ。猪頭ニ
 着ナシ。銀ミカキノ。臙當ニ。金作リノ太刀ヲ帶。黒
 キ馬ノ三寸バカリナルニ。金貝ニ家ノ紋ヲ入レ
 タル鞍ヲ置本。磁藤ノ弓ヲ横夕ヘ。真先ニ進ンテ
 相逆ヅキ。是ハ朝倉霜臺ガ家ノ子。福岡五郎右衛
 門尉吉澄トハ我コトナリ。今日軍ノ先驅シテ。名
 ヲ後代ニ留メ。高名今生ノ思出ニセント思フナ
 リ。但木凡下ノ一揆原ガ手ニカ、ランコト口惜
 クハ思ヘドモ。ヨシク其ハカ及バス。我ト思ハシ
 者共ハ。出合テ勝負ヲセヨト。太音揚テ呼ハリ。城

ヲ白眼テ扣ヘタリ。兵等是ヲ見テ。指ヒル大名
 トモ覺ヘズ。係ル隘者ノ不敵武者ニ躍リ合ヒ。命
 ヲ失テ何カセン。只置テ其ノ跡ヲ見ヨト。鳴ヲ辭
 メテ居タリケリ。吉澄腹ヲ立最先ヨリ名乗ルト
 云ヘドモ。矢ノ一筋ヲモ射出ガヌハ。臙病ノ至リ
 カ。但シ敵ヲアナドルカ。其儀ナラハ。イデク手ナ
 ミノ程ヲ見スベシトテ。馬ヨリ飛下リ。木戸堀ヲ
 切。落サントソシタリケル。是ヲ見テ。馮山肆ノ木
 助十騎バカリ。城戸ヲ開キ切テ出。福岡ヲ取圍ム。
 吉澄其共セス。真先ニ進ンタル。敵共ヲ切り倒ス。
 跡ニ續ケル武者是ヲ見テ。スカサズ走リ寄テ。無

手ト組上ニナリ下ニナリ。マロヒ合フ処ヲ。大介
カ手ノ者二三人落合テ。終ニ吉澄ガ首ヲ討城
中へ引入レバ。寄手ノ一千余騎是ヲ見テ。開
作リ
鋒ヲ揃ヘテ攻上ル。城兵モ爰ヲ破ラレテハ叶フ
マヅト。命ヲ惜マズ防戦ス。去レトモ寄手ハ更ト
モセズ。手負死人ヲ乘越踏越息ヲモ續
口ス攻立
レバ。城中ノ士卒術討尽テ。城ヲ捨高塚振橋ヲ指
テ落テ行ク。南郷ノ城ニハ。黒瀬掃部允近郷ノ下
後等。三千余騎ヲ従へ楯籠リケルガ。手レケク攻
立ラレ。士卒過半討レ。残り少ナニナリテ。大將黒
顔ハ山中へ引入レバ。藤丸新合ハ。横地ヲ指テ落

テ行ク。此ノゴトク。三ヶ所ノ城一日ガ中ニ落ケ
レハ。大將教景入道喜悅ノ眉ヲゾ開カレケル。
堀江中務丞景忠義勇。宗滴敷地山居陣事
去程ニ堀江中務丞景忠ハ。手勢一千余騎ヲ引具
シ元熊坂奥屋ニ火ヲ放チ。大聖寺ノ搦手ニ向ヒ
ケルガ。手ノ者共盤効ノタメニ。方々へ分レ散テ。
舎弟左京進。叔父駿河守。同名兵衛助。堀藤兵衛尉。
神波帶刀左衛門尉以下。僅二十四五人ニテ。八葉
ノ旗ヲ真先ニ押立サセ。松ノ生茂リタル陰ヨリ。
進ミ向フ処ニ。敵兵六七百騎計リ。四五町向フニ
見ヘタリケリ。景忠駈ト見ヤリ。是ハ大聖寺ノ城

兵等。擗手ヨリ落行ト覺ルゾ。追カケテ打取ント
勇ミケルヲ。即從兵敵ハ多勢ナリ。味方ハ小勢ト
云ヒ。跡ヨリ續ク勢モ候ハ子バ。味方ハ悉ク討取
レ候ヘシ。只々後口ノ山ニ登リ。諸勢ヲ相待レ候
ヘト。言々ニ制スレトモ。景忠曾テ聞入シ。スイヤ
ク後口ノ山ニ引上ラバ。堀江コソ敵ニ向ニナカ
ラ。逃タリトゾ。休休ヲセシラシ。景忠ニ於テハ。
諏訪。白山モ照覽アレ。一足モ引ヘカラストテ。長
刀ヲ膝ニノセテ百ト座シ。血眼ニナツテ居タリ
ケレハ。相從フ二十余人ノ者共。鎧ヲ膝ニカキ乘
セ。皆下リシキテ扣ヘタリ。是誠ニ一人モ生テ飯

ラント。思フ者ハナカリケリ。去レトモ敵敢テ近
ヅキ得ズ。次第ニ遠ク逃行ケバ。景忠是ヲ見テ。目
ノ前ナル敵ヲ討モラシヌルコソ安カラ子トテ。
嵩ヲ切ツテゾ立ニケル。其日ハ大将モ諸勢モ。猶
地山ニ陣ヲ取レバ。堀江ハ右ノ方ノ上ノ山。壇ニ
陣ヲ取ル。其日大将實檢ノ首數六十三。味方ニ討
死ノ者三十余人トゾ聞ヘシ。翌二十四日マダ寅
ノ尅ニ打立テ。江沼一郡ヲ放火セサセ。大将宗満
以テハ敷地山ニ陣セラレバ。諸勢ハ敷地菅生
ニ寸地モ余サズ。陣ヲ取ル。幸番助景連ハ菅生口
ニ陣スレハ。鞍谷衆ハ大聖寺ニ陣シ。武曾深町ハ。

ハウニキウ村ニソ陣シケル。斯レ日数ヲ經ケレドモ。他所へ陣督アルベシトモ見ヘサレバ。宗徒ノ者共。大将ノ前ニ來リ。此所ニテ数日ヲ送ラセ玉フコト。然ルベカラスト諫メケレバ。宗滴聞玉ヒ。旁ノ宣フ處。其理ナキニ候ハズ。去ナガラ入道久レク。此所ニ在陣スル程ナラバ。敵兵等馬ノ鞍ヲ卸サズ。昼夜甲冑ヲ着テ。今ヤ寄來ルト相待シカ。斯レテ数日ヲ送ラバ。敵兵身カ疲レ勇氣尽テ。寄手ハ思ヒシヨリハ小勢ナリト覺ルゾ。押寄テ打散セヨトテ。寄來ランハ消定ナリ。其トキ四郡ノ敵兵等ヲ。居ナガラ討取ント思フナリト語ラ

ルレバ。各アキレテ。虚笑ヒシテソ立ニケル。

鯖江兵部雨中夜話事

其夜雨降物サビシカリケレハ。越前勢ニ。岸波勝七。東又左衛門尉。鯖江兵部。新保弥六等。雨中ノ後。然テ慰ント。岸波カ役所ニ打寄テ。様々ノ物語リシケル處ニ。鯖江ハ六十有。余ノ老武者ナリケルガ進ミ出。大将宗滴ノ勇謀ヲ感ビテ云ヒケルハ。旁ハ若輩ナレバ。入道殿ノ若年ヨリノ武略ノ程ヲ知リ玉ハジ。夏長々シク候ヘドモ。アラク物語仕ラン。此人ハ若年ヨリ。智謀無双ニシテ。天下ニ武名ヲ顯シ玉ヒ。一度モ後レヲ取玉ハズ。去ヌル

永正十二年。若州ノ逸見。武田方ヲ叛キ。丹州ノ延
永源六十云フ者ヲカタラヒ。八千余騎ニテ。若州
ニ乱入ス。其比故孝景朝臣ハ。武田中務太輔元信
ノ聲ナリシカハ。頗リニ加勢ヲ乞玉ヘリ。其トキ
此ノ道殿ヲ大將トシテ。若州ヘ軍勢ヲ指向玉フ。
延承其勇威ニ怖レ。一戦ニモ及ハズ。逃退キ。丹州
笠部庫橋ノ城ヘ遁篋リケルヲ。教景備前守。續イテ
攻入彼城ノ四方ヲ取巻キ。息ヲモ續セス攻テレ
ケレバ。源六防グベキ術ナク。降ヲ乞ヒ。城ヲ闕テ。
分ケ迷フ。クラハシ山ノ雲霧ニ心洩クモ。出ル月カナ。
ト一首ノ歌ヲ口ズサシ。何國トモナク。落行シカ

ハ。頗テ城ヲ破却シ。笠郡ヲ伐リ取り。武田方ヘゾ
渡サレケル。其後大永五年五月。江州ノ佐々木ト
浅井亮政父子ト合戦アリレトキ。浅井ヨリ援兵
ヲ乞レシユヘ。教景又一万余ノ軍士ヲ従ヘ。江州
北郡ヘ奔向アリ。佐々木方ヲ伐リ崩シ。大ニ勝利
ヲ得玉フ。此時ヨリ浅井家ハ。赤孫ニ至ルマテ。永
ク當家ノ旗下タルベキ旨ノ誓約アリ。其ヨリレ
テ其時ノ戦場ヲ。土人呼テ金吾ツク。俗語ニ峯ヲ
ト申ナリ。同キ七年。阿波御所義維。細川澄元。三好
黨以下ヲ相従ヘ。都ヘ攻上リ玉ヒレトキ。細川右
京太夫高因。公方萬松院義晴。卿ヲ具シ奉リ。東坂

本へ御動座ナレ奉ラル。此トキ公方御飯洛アリ
夕キ由ニテ。當家へ加勢ノ儀ヲ仰下サル。然レ
トモ其比モ一向宗門ノ一揆蜂起セシニヨリ。考
景朝臣ハ在國レ玉ヒ。陣代トシテ。叔父教景父子
ヲ指登レ玉フ。教景多勢ヲ卒レテ馳上リ。公方家
ノ御供申シ入洛レ玉ヒ。都塩小路千乘寺トニテ
大ニ血戦レ玉フ。敵ハ畠山上總。今義豊同夕長臣
遊佐彈正等ナリ。此トキ味方前波カキヨリ崩レ
立井兵部丞。訖養宗節身井與七十七歳多勢ト
戦ヒ討死ス。其外佐々布光林坊。同音連坊。同左京
進。教景ノ衆ニハ。大瀬渡邊。山本長谷川以下。一時

常千ノ兵共敵ニ當ルコト十ヶ度陣ヲ破ルコト
六ヶ度ニシテ終ニ其所ニテ討死ス。此トキ味方
討ル、者百余人ニ及ブト云ヘドモ。教景ノ嫡子
孫九郎景紀。少シモ氣ヲ屈セズ。野々官マテ追カ
ケ。遊佐彈正カ首ヲ。梅野ト云フ者討取リレカハ。
岡邊祭五郎カ首ヲハ。神彼小四郎是ヲ得ク。此
トキ敵ノ首ヲ得ルコト。百五十余級ナリ。其比京
童ノ落首ニ。
野々官ノ森ノ木拵行ク遊佐ヲ。討取ヌルハ。九郎判官
トヨミテツ立夕リケル。教景ハ手下ニ敵十余人
射伏セラル。加様ニ養名ヲ雲上ニトハメ。公方家

ノ御感賞ニ預リ玉ヘリ。其後又天文十三年尾州ノ織田彈正忠懷州へ乱入ノトキ越前へ加勢ヲ乞レシニヨリ。同キ八月十二日。彼國ニ發向シ。彈正忠信秀ヲ追返シ。宗滴ハ夏ユヘナク飯陣レ玉フ。去レバ此ノ人ハ堅キヲ破リ利ヲ碎キ玉フコト。項主ノ勢ヒヲ吞ミ攀喰ガ勇ニモ過玉ヘリ智深ノ物ノ巧ミナルコト曾テ凡入ニハアルベカラス。或ハ庭前ニ鷹ノトヤヲ捕ヘ。雌雄ヲ入レテ子ヲナサセ。或ハ鮭ノ鱔ヲ取テ。水舟ニ是ヲ入レ。寒温ヲ討ツテ。湯ヲ入レ置玉ヘバ。悉ク生テ魚トナレリ。誠ニ智勇兼備ノ名将ナレバ。此所ニ御逗留

アルコトモ。係キ慮リツ候ラント云ヘバ。列座ノ悲感心ヲゾシタリケル。

加州勢敷地寄 附軍勢手分事

案ノゴトク。加州四郡ノ者共ハ。敵今ヤ寄来ルト。甲冑ヲモ脱ス堅固ニ備ヘテ待ケル程ニ。秋ノ夜長シ夜長ケレトモ。眠ルコト能ハス。十四五日ニ及ンテ。用心キビレクシケル間。勇氣疲レカ屈シテ。イヤク敵ハ思フニハ似ス。小勢ナリト覺ルソ。此方ヨリ押寄テ打散セヨトテ同キ八月十二日ニ押寄ル。翌十三日ハ。先師證如上ノ御命日ナレハ。是ヲ吉日トシテ。諸國ノ門徒四方ヨリ同時

ニ打立べし。板濱手ハ。超照寺ヲ大将トシテ。能養
 一郡ノ者共向フベシ。追平へハ。石川勢。和田。蕪木。
 洲崎。窪田。河合。玄任。十人衆。菅生。口へハ。河北。小原。
 高坂。山一番里。一番ノ者共。石橋。口へハ。江沼郡。黒
 瀬。熊坂。振橋。大坂。藤丸。柴山ノ者共向フベシトシ
 定メケル。期テ十二月ノ午ノ尅ニ打立。其夜ハ山
 マニ遠篝ヲ焼シカハ。越前勢見テ。須破敵ハ
 打出タルゾトテ。騒動スルコト斜ナラス。更行マ
 二見渡セハ。秋篠ヤ外山ノ里。小俣山城。葛谷。松
 山。横地。が谷。九谷ノ奥山。輪形。嵩ニ見ユル火ハ。晴
 タル夜ノ星ヨリモシゲク。藻塩草カルミノ村。小

塩橋立。鴻山。津田。尻ノ浦ニ焼篝ハ。備舟ニトモス
 イサリ火ノ。彼ヲ焼カトアヤシマル。總シテ能養
 江沼郡。アリトアラユル所ノ山々。浦々ニ。篝ヲ焼
 ス。処ゾナカリケル。明レハ十三日。夕卯ノ尅。巴
 カリニ。朝倉方ノ大将ノ陣セラレタル。濱手ノ高
 山ニ。敵兵十人ハカリ。兎ノ屋ヲカ。ヤカシテソ
 見ヘニケル。宗滴入道。是ヲ見玉ヒ。萩原八郎。右衛
 門尉。宗俊ニ。諸手ノ足輕。二三百人ヲ相添へ。西ノ
 高山へ指遣シ。敵攻上ルト云フトモ。山七八分ニ
 上ルマデハ。少シモ働クベカラズ。山八分ニ攻上
 ラバ。一同ニ。隘ト切りカ。レヨ。敵ハ定メテ多勢

ナラン。味方ハ山ノ頂ニ。一面ニ勢ヲ立長。地雁行ニ陣ヲ張リ。多勢ニ見ユルヤウニ。討ラフベシト下知シテ。遣ハサレケルカ。猶モ覺束ナシトテ。大將宗滿續イテ出ラレケレバ。士卒等味方千方騎ヨリモ。勝レテタノモシクゾ思ヒケル。

敷地山嶺至道平兩所合戰事

去程ニ敵ノ大將超照寺。二万五千余騎ヲ引率シ。金鼓ヲ鳴シ鎧ノ袖ヲユリ合セ。曳々壺ヲ揚ケ。我勞ラシト攻上ル。越前勢ハ静マリ返ツテ待居シガ。敵ノ息ヲツカラカシ。思フ圖ニ偽引寄セテ。一同ニ咄ト切りカレバ。敵一支ヘモ支ヘズ。谷底

へ崩レ落ルヲ。追カケ追ツメ討取タリ。朝倉次郎尤衛門尉景尚真先ニ進ンテ追カケ。敵ト組テ首ヲ取ル。同三富孫六景冬ハ。其所ニテ討死ス。折レ小雨フリ。朝霧深ク立コメテ。敵モ味方モ見分ケサレバ。逃ル味方ヲ敵ノ追ゾト心得テ。馬ヲ捨テ太刀物具ヲ捨テ。我先ニト進行ク程ニ返シ合セテ戰ハントスル者ハ。一人モナカリケリ。超照寺大音揚テ。爰ヲ落テ何國ヘカ行フ。何ノ面目アツテ誰ニカ回ヲ向フヘキ。法義ノタメニ討死シテ。早夕極樂ニ赴ケヨト。馬ノ足ヲ立直シク。四方ヲ白眼テ下知シケレドモ。多勢ノ引立タル辟ナレ

ハ。一返レモ返サズ。親ヲ捨主ヲ踏コロハカレテ
逃ル程ニ。或ハ高岸ヨリ馬ヲ馳倒シテ。其ニ、討
ル、者モアリ。或ハ難所ニ行ツマリテ。心ナラス
腹ヲ切ルモアリ。只ヒ夕崩レニ崩レテ逃行ク程
ニ。安宅ノ橋ノ危フキヲモ云ハス。馳重ツテ捫合
レカバ。人馬トモニセキ落サレテ。又死スル者数
ヲ知ラス。見苦しカリシ分野ナリ。去程ニ宗満ハ
濱手ノ合戦ヲ思ヒノマ、ニ打勝レケルカ。猶モ
追手ノ合戦心元ナレトテ。馳返レテ。敷地山ニ打
上リ。敵ノ跡ヲ見玉フニ。和田洲崎。蕪木ヲ始。石川
郡ノ一揆共。及ビ越中ノ大坊主。其勢都合五万余

騎。楠ノ端ヲナラシ。一同ニ関ヲ作ル。其トキ堀江
中務丞景忠追手ノ山路ヨリ下リケルヲ。宗満軍
使ヲ馳テ。早ク柵ノ内へ引入ルベシト制セラレ
是ニヨツテ。景忠頓テ勢ヲマトメ柵ヨリ内へ引
入レバ。一揆共是ヲ見テ。引退クヅト心得喚キ叫
ンデ攻カ、ル程ニ。柵ノ内ナル軍勢モ。心ナラス。
天神堂マテ引退ク。大将宗満打寄セテ。キタナキ
者共ノ舉動ヲナ。返セヤ返セト下知セラルレバ。
堀江中務丞木戸際ニテ取テ返レ。西ヨリ東へ追
廻シ。北ヨリ南へ駈通り。左ヲ突右ヲ討テ。手下ニ
四五人切り伏ル。即等ノ堺民部左衛門尉實清。神

彼新七忠成モ、能敵ト組テ高名ス。黒坂勘解由左衛門尉景冬ハ、節繩目ノ鎧ニ、四方白ノ兜ヲ着タル敵ニ渡リ合、暫シカ程戦ヒシカ、何トカレケレ膝ヲ破レテ、漂フ処ヲ、敵組ント走リカ、ル景冬心早キ男ニテ、違ヒサマニ敵ノ高股薙テ倒ル、処ヲ乗カ、リ。首ヲ擡テ立アガル。其外中村五郎右衛門尉鳥居八代前波弥四郎半田又ハ以下、一騎當千ノ若者共、我劣ラシト相戦フ。海江河内守父子モ、敵中ニ切テ入り、前後ニ敵ヲ受相戦フヲ見テ、魚住出雲守馳廻リ、精兵ノ手夕レヲ揃ヘ、雨ノ降ルゴトク矢ヲ射サセケレハ、敵兵大ニ碎易

シテ、後陣ヨリ崩レ立前後不覚ニ進行ク程ニ、池ヘ飛入り、河ヘマロヒ落テ、或ハ討レ、又ハ生捕ラル、者、其数ヲ知ラザリケリ。
菅生口合戦附大町ノ兄弟討死、龍崎宮平代貞喜事又菅生口ヘハ河北一郡ノ者共、小原高坂ヲ大將ニテ、其勢一万三千余騎ニテ押寄シカ、乱株逆木ヲ引破リ、攻入ントスル処ニ、森吉政、桑原、藤嶋走リ渡リ、土狭間槽ノ上ヨリ指下シテ、敵々ニ射タリケレバ、加州勢少シ、疼ンテ見ヘタリケリ。吾番助景連時分ハ、能ゾカ、レくと。馬ヲ進メテ下知シケレバ、福岡三郎右衛門尉吉備モ、已レカ陣所

ヨリ馬ヲ早メ。虎口へト打出ル。時ニ大町左馬助
 兄弟即等五人一番ニ切テ出。大音揚テ。愚人ハ鏡ヲ
 以テ面ヲツクラヒ。君子ハ友ヲ以テ心ヲ倚ムト
 云へリ。汝等ガタメニハ能敵ゾ。其所ヲ引テト切
 リカレバ。小原高坂是ヲ見テ。余リニ無勢ニテ
 打出レハ。察スルニ逸物ノ兵ヲ勝リ。多勢ノ中ヲ
 カケ通ラセ。能キ將ト組テ。勝負ヲ決セヨトノ言
 ナルべシ。思ヒ切タル小勢ヲ。一息ニ討ントセバ。
 味方多クアヤマチセン。只荒手ヲ入レ替く。取コ
 メテ討取レト下知スレバ。大町火シモタメラハ
 ス。大太刀ヲ真向ニ。指カザシテ躍リカ、ル。小原

カ一族五百余騎兼テ謀リシコトナレバ。左右へ
 颯ト分レテ支へタリ。大町兄弟。兼武者共ニ八月
 モカケズ。此中ニ大将ヤアルト見廻セシガ。又南
 ナル河岸ニ。二百騎ハカリニテ押へタル勢アリ
 是ノ能敵ニテアルラント。真暮ニナツテ切テ入
 リ。多勢ノ中ニ取リコメラレ。千人モ残ラズ討レ
 ニケリ。菅生口ノ合戦ハ。此ノゴトク互角ナリケ
 ル処ニ。追手ノ寄手悉ク敗軍シケレバ。此口モ恢
 へ得ズ。右往左往ニ逃テ行ク。玄蕃助景連得タリ
 賢ト士卒ヲ下知シテ河崎山代マテ追詰敵多
 ク討取リケリ。石橋口へハ。江沼郡ノ者共。八千余

續日本書紀 卷之三

騎ニテ押寄南卿ノ城ニ居タリケルガ。諸口ノ寄
手悉ク敗北スルヲ見テ。這々山中ヲ指テ落テ行
ク。此トキ石橋口ノ越前勢。大聖寺ノ輩ナド打テ
出テ追フ程ナラバ。寄手過半討ルベキ者ヲト。諸
人後悔スレト甲斐ゾナキ。然レトモ此二軍ヘハ。
惣大将ヨリ。兼テ下知セラル、子細アツテ。打テ
出ザリレト。後日ニ其、少休アリレナリ。大将宗備
長追ラスヘカララスト。急ニ鐘ヲ撞セラレケル程
ニ。諸勢悉ク是ヲ相圖ニ引返ス。其日實檢ノ首六
百八十余級。其外手負死人数ヲ知ラス。去レハ古
ノ齊藤別當實盛ハ。一度鬢髮ヲ剃テ。佳名ヲ加州

篠原ノ池ノ邊リニ留メ。今ノ金吾入道宗滴ハ。二
度強敵ヲ亡ボシテ。勇名ヲ敷地山ノ頂ニゾ擧ラ
レケル。爰ニ又。越前勢ノ内ニ。竜崎官千代ト云フ者
アリ。今年未ダ十六歳ナリケルガ。父ハ去月二十
三日。津葉ノ城ノ先驅シテ。討死シケルニ。官千代
幼ナリト云ヘドモ。父ト一所ニ討死セザルコト
ヲ無念ニ思ヒ。今度ノ合戦ニハ。能敵ト組テ高名
スルカ。然ラズンバ討死シテ。父ト同ジ地ニ骸ヲ
曝ント。兼テ人ニモ語りケルガ。未ダ若年ナリシ
ユヘ。猛勢ニ押隔テラレ。此度ノ合戦ニ高名ヲモ
セザリシユヘ。此躰ニテ何ゴトナク。故郷ニ皈ル

程ナラバ。諸人ニ後口指ヲサ、ルベシ。然レバ浮
 世ニアリテモ何カセシ。此上ハ自害スルヨリ外
 ハアルベカラズト。只一筋ニ思ヒ定メ。夜更テ後。
 故卿ノ親類知音ノ方ヘノ書ナドヲ書シタ、メ。
 其後疊紙ヲ取出シテ。
 子ヲ思フ。暗ニ途ヲナマテ暫シ。死手ノ山邊ヲ共ニ越テシ
 ト。一首ノ碎世ヲ書置テ。腹掻切リ。北枕ニ伏テ死
 セシカバ。大将ヲ始メ。諸人皆比類ナキ所存カナ
 ト。袖ヲシボラヌハナカリケリ。

北国全太平記卷之二終



